

建設コンサルタントのまちづくりを体験しよう！

協和コンサルタンツの「夏休み☀️11日間インターンシップ」

◆ 募集要項

- 開催期間** 2017年8月22日～9月8日（8/28、8/29、9/4 はお休み。実働11日間）
- 開催場所** 協和コンサルタンツ東京支社（京王線笹塚駅より 徒歩10分）
- 募集人数** 10名程度
- 応募条件** （学部学科不問）大学3年次、大学院1年次の方※4年生、既卒の方もご相談ください。
- 交通費** 支給（遠方の方はご相談ください）
- 応募締切** 7/21（金）※ 定員になり次第、募集終了となります。お早めにお申し込みください。
- 申込先** 03-3376-3171（総務部 新井・中村） [リクナビからのお申込みはこちら](#)

◆ どうしてインターンシップをするの？

● 職業適性や将来設計を考える機会になる！

業務に取り組んだり先輩社員と話すうちに、自分がやりたい仕事が見えてきたり、働き方を考えることができます。また、他の実習生とともに課題解決に取り組む中で、自分でも気付かなかった適性がわかり、今後の就職活動にも大いに役立つでしょう。

● 希望する業界や会社についてよく理解する！

建設コンサルタント業界に限らず、就職後にイメージとのギャップを感じ、早々に退職してしまうケースは多くあります。インターンシップは、希望する業界や会社のことをよく知り、自分のやりたいこととマッチしているか考える良い機会になるでしょう。疑問に思うことは、先輩社員に何でも質問してみてください。

◆ どこがおもしろい？ 課題解決型インターンシップ

通常の インターンシップ	アルバイトのように日々の業務の一端をその都度頼まれ、淡々と作業するだけ。⇒ 貴重な夏休みを割いてまで参加するメリットが感じられない...
課題解決型 インターンシップ	実務者と一緒に課題に取り組み、演習を行う。⇒ コンサルタントの仕事の流れに沿ってチームで課題解決に取り組むことで、より業界への理解が深まる！

◆ 課題解決型インターンシップのステップ学習（例）

ある地域の活性化のための計画を立てるプログラム。学生同士でテーマについて話し合い、課題を見つけ、自分たちの思い描くまちづくりの計画を立案。作業はチーム全員で行い、最後に成果を発表していただきます。



実習生は、11日間のうち約4日間は各部署に配属され、設計検討作業を行う予定です（※インターンシップは東京支社での開催になりますが、入社後の配属は東北・九州支社の可能性もあります）。ホームページに各分野の事業内容等案内がありますので、ぜひご覧ください。

◆ 昨年度のプログラム紹介

テーマ 『私たちの住むまちに再生可能エネルギーを導入して、地域を元気にしよう』

昨年度は、当社が力を入れている新規事業「再生可能エネルギーの普及」に関連付け、上記のテーマで実習生が課題解決に取り組みました。実働9日間でしたが、建設コンサルタントの仕事の流れを体験する充実のプログラムになりました。



基礎調査

まずは、まちの特徴を調べて特徴をつかみ、どの様なまちにしたいかを考えました。その実現に向けた計画を立てるために、手分けして情報収集を行い、模造紙にまとめました。その後、水路や周辺施設の現地調査などを行いました。

市民検討会への参加

当社が市から運営を委託される市民検討会に実習生として参加。実習生も市民委員のみなさんに混ざり、まちの活性化について話し合いました。事前にまとめた活性化のアイデアマップを、市民委員の皆様へ発表しました。



課題の整理・各自課題の解決

再生可能エネルギーを利用して活性化したい場所を決めた後、その場所の特徴に合わせた活性化計画を考えました。現地写真や各種図面等を使って活性化マップを作成しました。ここでは、見やすく・伝わりやすい資料の作り方を学びました。

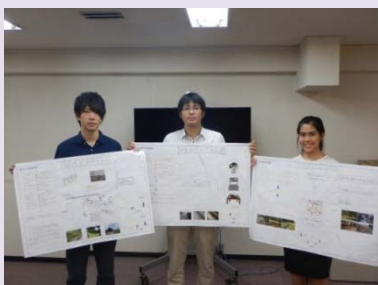
現場見学会

ちょっと遠出して、当社が過去に設計した護岸や、道の駅を見学。当時の現場写真や図面等を見ながら、設計を担当した社員の話听取了。現場見学を通じて、建設コンサルタントという仕事のやりがいを感じられたのではないのでしょうか。



まとめ・成果発表会

最後は全員でまちの特徴からキャッチコピーを考え、各自検討した活性化計画をマップやパワーポイント形式にまとめ、発表しました。発表会には各部署から多くの技術者が参加し、意見交換を行いました。調査・計画、成果発表会まで頑張った研修生は達成感が溢れていました。



◆ 昨年度参加者の声



土木工学科 Kくん

建設コンサルタントの仕事は設計図を黙々と描き続けるという印象を持っていましたが、ワークショップや市の検討会に参加して、設計技能よりコミュニケーション能力が必要だということを実感し、仕事のイメージが大きく変わりました。

道の駅の見学をしてはじめて、こんなに大規模な建築物を設計しているのだと実感しました。自分も将来このような設計を任されることもあると思うと、不安な反面楽しそうだと思いました。東北地方太平洋沖地震で液状化により多大な被害を受けた場所もきれいに整備されていましたが、災害の爪痕は今もなお存在し、復旧の大変さを学ぶことができました。

現地調査など、普段の研究室生活ではできないことが経験できました。他の学生と一緒に働いて意見交換をしたり、問題解決の方法を考えたりして、成果を出すことができました。

特に私は日本語が上手に話せないにも関わらず、丁寧に説明してくださいました。私が最も感じたのは、皆様とても優しいということです。



理工学研究科 Sさん(留学生)



土木工学科 Tくん

参加する前は、会社というものがどういうものなのか漠然としていてあまり分らなかったけど、インターンシップを通してそれを肌で感じることができました。短い期間でしたが、多くのことを学ぶことができました。

現場見学では、何気なく使っていたら気付かないような細かいところへの作りこみや、よく考えられた設計など、たくさん説明を聞かせてもらいました。「自分が設計したものを多くの人を使い喜んでくれる」という夢があると思い土木の道に進んだ自分にとっては、とても貴重な体験で、その想いがより強くなりました。

皆様のご応募をお待ちしております！